

第4回大学施設マネジメント研究会を開催

第4回大学施設マネジメント研究会が、5月27日(火)、野依記念学術交流館において開催されました。

研究会では、杉浦理事のあいさつに引き続き、野中ともよ NPO 法人ガイア・イニシアティブ代表による「ガイア・イニシアティブ -地球環境対応と日本文化-」、林環境学研究所長による「地域戦略から見た大学間の国際・地域内連携と、必要な仕掛」の二題の講演が行われました。

野中氏の講演では、これからの大学は、どのような人を



講演を行う野中氏



パネルディスカッションの様子

創るのか、そのためにどのような施設をつくるのかという問いかけがあり、地球環境課題への取り組みに価値を見出す大学施設マネジメントのあり方についての提案がありました。林研究科長からは、これからの大学間競争に打ち勝つためには、大学間の国際連携とともに、地域力としての大学連携が不可欠であるとの指摘がありました。

次に行われたパネルディスカッション「国公立大学連携の地域コンソーシアムについて -大学施設マネジメント研究会の活動と今後-」では、谷口 元 施設計画推進室長をモデレーターに、2名の講演者に加えて、梶山正弘 梶山女学園大学理事長、三浦春政 三重大学理事、山口博行 施設管理部長が演壇に上がり、地域連携による大学施設マネジメントのあり方について活発な議論を交わしました。

今回の研究会には、大学・官庁・民間企業から100名を超える参加者があり、施設マネジメントに対する関心の高さが伺われました。

今後も継続して研究会を開催し、施設マネジメントの諸課題について、議論を進めていくこととしています。

第38回、第39回防災アカデミーを開催

第38回防災アカデミーが、4月21日(月)、環境総合館レクチャーホールにおいて、災害対策室主催のもと開催されました。今回は「地域防災の実践事例に学ぶ」という観点から、大石昇司 北海道札幌市南区澄川地区連合会会長が、「地域ぐるみで守る！～防災まちづくり大賞を受賞して～」と題して講演を行いました。

大石氏は、地域の防災や防犯に関する様々な取り組みを有機的に結びつけた活動を展開し、平成15年度には防災まちづくり大賞を受賞するなど、その存在が全国に知られています。今回の講演では、地域における防災への取り組み



第38回防災アカデミーの様子

をいかに持続可能なものにするのかに焦点をあて、日常的な防犯活動と防災活動を連動させる具体例などが詳しく紹介されました。参加した一般市民からは、「最終的な形を思い描きながら取り組まれた経緯などが自分の活動を進める上でも参考になった」という感想が聞かれました。

続いて、5月29日(木)には、第39回防災アカデミーが開催され、柴田いづみ 滋賀県立大学教授による「まちが崩壊する前に」と題する講演が行われました。

柴田教授は防災・耐震・まちづくりフォーラム実行委員長を務めるなど地域の防災・耐震化・まちづくりの活動を積極的に進めています。また建築家として多くの建物の設計に携わり、高齢者や子供に配慮しコミュニケーションを育てるための建築を進めています。今回の講演では地域協働によるまちづくりから防災への展開などについて豊富な事例をふまえた話がなされ、94名の参加者にとって大変有意義な講演となりました。



講演する柴田滋賀県立大学教授